

2018年度 学校自己評価シート (浦和実業学園中学校・中高一貫部)

目指す学校像	「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。
--------	---

重点項目	1) クラス活動や行事を通じて、豊かな人間性と学校での好ましい人間関係づくりを推進する。(徳育) 2) 実学教育の実践として行われている特色ある教育活動を通じて異文化理解を深め、学ぶ意欲を養う。(英語イマージョン教育の推進) 3) きめ細かな学習指導により、基礎学力の定着と実践的学力の伸長を図る。(学力の向上) 4) 6年間を見据えたキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。(進学実績の向上) 5) 一貫部全教職員で生徒募集活動に積極的に取り組む。(募集定員の確保と受験者数の増加)
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者 懇話会委員 5名 学校関係者 6名

学校自己評価					
年度		目標	2018年度評価		
番号	現状と課題	具体的方策	達成状況 達成度 次年度への課題と改善策		
1	<p>○中学の全教室に設置したプロジェクトによりALやグループワークを取り入れた授業が実施されているが、4号館の一貫高校の教室にはプロジェクトがないため、これらを利用する授業の継続ができていない。</p> <p>○防災教育については手始めに強歩大会を実施したが、まだ充実しているとは言えない。</p> <p>○6年間を通じて、一つの目標に向かっての指導計画が確立していない。人や世の役に立ちたいという思いを育み、目標に向かって情熱を持って取り組む力(grit)を養成するなど、指導の一貫性が必要である。</p> <p>○コミュニケーション能力の育成のため、オアシス精神の徹底、部活動全員加入、いじめ防止についての教育などを実施しているが、特に挨拶に関しては未だ定着しているとは言えない。</p>	<p>○高校一貫コースを含め、4号館の全教室にプロジェクトを設置し、AL、グループワーク⇒プレゼンテーションのスキルアップを図る。</p> <p>○防災教育の一環として、強歩大会の他、防災館(そなエリア東京)の見学・体験を取り入れる。</p> <p>○6年間でgritを養うことを目標とし、各学年における指導目標を立て、さらにそれに基づいた行事を企画・再編成する。</p> <p>○「オアシス精神」の定着のため、生徒が普段から普通に実行できるよう、今年も生徒会を中心に主体的な行動を促す。</p> <p>○部活動については、引き続き全員加入を目指す、円滑な運営を目指して部活動の整理を行う。</p> <p>○いじめ・体罰アンケートは、今年も実施する。</p>	<p>○2学期より4号館のすべてのホームルーム教室・美術室・技術室にプロジェクトを設置したことで、映像教材等で生徒の興味喚起ができるようになった。また、授業の効率化により密度の濃いグループ討議の時間が確保されるようになった。</p> <p>○9/12防災学習として、中学校全学年で「そなエリア東京」の見学・体験を実施した。また、12/14中学校全学年で強歩大会を実施し、参加者全員が約18kmを完歩した。</p> <p>○一貫部としての6年間の指導目標を立て、それに基づいて各学年で行事や講演会の企画をし、実施した。</p> <p>○5月24・25・26日および11月30日に、さいたま市と連携して、挨拶運動を実施し、オアシスの精神の徹底に努めた。</p> <p>○中学ではほぼ全員が部活動に加入しているが、在籍が少ないため、運動部と文化部の掛け持ちをしている生徒もいた。</p> <p>○いじめに関するアンケートは6・11月、体罰に関するアンケートは9月・2月の年2回行い、実態把握と個々案件への対応を行った。</p>	B	<p>○校訓の具現化であるオアシス運動を含めコミュニケーション力の養成について、各教員が生徒個々の状況に応じ指導をしているが、教員間での情報共有が少ない。全ての教員が対応できるよう、個々の情報を全体で共有をすることが望ましい。</p> <p>○プロジェクトの利用度はかなり高いが、内容や様式がマンネリ化しないよう教員相互の研修が必要である。</p> <p>○防災学習について、そなエリア見学・体験と強歩大会の実施で、防災意識を養成する企画が確立した。毎年実施できるよう上級学年の生徒が飽きない企画を考えたい。また、強歩大会は一貫4・5年生にも広げて実施したい。</p> <p>○部活動への積極的加入の推進や、いじめ・体罰の把握のためのアンケートも継続したい。</p>
2	<p>○スピーキング力のスキルアップのためネイティブ教員がそれぞれのやり方で奮闘しているが、ネイティブ間での共通理解が必要である。</p> <p>○4年生の実技科目における、ネイティブ教員の役割が明確になっていない。</p> <p>○3週間のハワイ短期留学を成功させるために、当該学年だけでなく早期より意識付けと自立心を養う指導を行うことが肝要である。</p>	<p>○「話す力」の向上のためにネイティブ教員が共通チェック項目を設け、学校生活全般において生徒が自発的に英語を話す機会を増やす努力をする。</p> <p>○4年生における実技科目のイマージョンについてよりネイティブ教員の生の英語に触れる機会を作り、ハワイ短期留学の成功につなげられるようにする。</p> <p>○中学1年から、ハワイ短期留学に必要な自立心を養うことができるように、生活習慣の指導も細かく実施する。</p>	<p>○中学1年の英語において2クラスを3分割して授業を実施し、生徒の能力に応じた指導ができた。また、生徒による朝の英語校内放送も少しずつ工夫を凝らして昨年に引き続き取り組んできた。</p> <p>○ハワイ短期留学の準備として4年生に対し、ネイティブ教員がレクチャーする時間を設けるなど、高校一貫部生徒も実技科目を含めネイティブ教員と接する機会が増えた。</p>	A	<p>○英語入試の導入により、英語能力の高い生徒が入学してきている。ABCからスタートする生徒も多いため、今後も習熟度別の分割授業が必要になってくる。</p> <p>○3週間のハワイ短期留学を、その後の進路実現のための自立心を養う好機としてとらえ、継続的な指導を行うことが肝要である。</p>
3	<p>○思考力、判断力、表現力を身につけさせる教育活動を実践することが肝要だが、それについての研修が教員間でまだ差がある。</p> <p>○道徳の特別教科化に向けた授業研究がすべての学年で実施されているという訳ではない。</p>	<p>○継続的に教員研修会に積極的に参加し、その内容を教員間で共有して授業にフィードバックしていく必要がある。</p> <p>○教科化されることを前提として、道徳の授業をどのように組み立てて評価していくのかを全教員で研修し共有していくことが肝要である。</p>	<p>○10月に外部講師として教育アドバイザーを招き、「第三者授業診断」を実施した。概ね高評価であったが的確な指摘もあり、良い研修の機会となった。</p> <p>○7月に行われた新学習指導要領の説明および協議会に中学校全教員が参加し、改訂の内容把握、指導案作成などについて研修を受けた。</p> <p>○5/29に埼玉大学教育学部附属中学校で行われた研究協議会に国語科教員が参加した。</p>	B	<p>○第三者授業診断については、結果を教員間で共有することにより授業改善にかなり有効であるので、次年度も継続していきたい。</p> <p>○生徒の基礎学力の向上のために、これまでと同様、キャッチアップ補習・アドバンス補習などを含め、個々の習熟度に合わせた指導が必要である。</p>
4	<p>○1年次の社会見学、2年次の職業体験・福祉体験と、職業に目を向けるよう行事を企画しているが、その連関が薄く単発的な感がある年がある。外部講師による講演会も含め、引き続き内容の充実と学年間の連関を図る必要がある。</p> <p>○8期生は私立大学定員確保の影響を受け実績が上がらなかった。さらなる進学実績向上に努める。</p>	<p>○正しい職業観を養うため社会見学、職業体験等各行事の連関を取りながら引き続き実施し、内容の充実を図る。</p> <p>○専門的な知識を持った外部講師による講演会を数多く企画し、生徒が本物に触れる機会を確保する。</p> <p>○9期生の進学実績向上のため、成績委員会等を通じて全教員で一人一人の生徒の進学指導ができるように努める。</p>	<p>○中学2年の職業体験は、11/1・12・13に飯田スアールで実習を、2/7に「あんといれすくーる」を実施した。これらは、生徒の自立心や責任感を養う行事であり、実施後には困っている人にも積極的に声をかけることができる生徒が増えるという効果もあった。</p> <p>○進学実績向上のため、各種補習を実施した。また、6年生の成績会議(進路検討会)を2回実施して個々の志望校の検討を行ったが、概ね効果があり、国公立大合格は一貫部一期生と同じ13名だった。</p>	A	<p>○「あんといれすくーる」を始めとする職業体験は事前指導・事後指導がかなり大変だが、マンネリ化しないように留意しながら実施していく。</p> <p>○6年の成績会議は、最終的な本人・保護者との話で異なる方向性が示されることもあったが、進路達成の一助となったので、今後も継続したい。</p>
5	<p>○土曜の午後に実施してきた「英語であそぼう」「算数講座」は生徒募集活動に大きく貢献した。</p> <p>○さいたま市立大宮国際中等学校の開校により地元受験生の増加が予想される。これに対応した入試日程を考える必要がある。</p> <p>○昨年はシステム導入の遅れから学校説明会のweb予約制が徹底できなかったため、出願者がどの説明会に参加しているのか完全に把握できなかった。</p>	<p>○募集活動に大きく関係する「英語であそぼう」「算数講座」はこれからも継続する。</p> <p>○適性検査型入試・英語入試が入学生の増加につながったことから、さいたま市立大宮国際中等学校の開校にあわせ、これらの入試の充実を図る。</p> <p>○学校説明会の予約からweb出願・入学手続きまでの一連の作業が同じシステムで実施できる強みを生かし、説明会参加者を出願にまでつなげていきたい。</p>	<p>○小学生を対象とした「英語であそぼう」「算数講座」は毎回盛況で、キャンセル待ちが出ていた。参加者の満足度も高く、出願に大いにつながった。</p> <p>○説明会参加者数が昨年の1.6倍程度に増加し、適性検査型入試を希望する受験生の、説明会参加率も増加した。特に埼玉県内の受験生が増えたのは、さいたま市立大宮国際中等教育学校の設立の影響であると言える。英語入試についての関心も高まり、受験生数20名であった。</p> <p>○受験者総数は1,483名で昨年の1.2倍になり、入学者数も80名で昨年より11名増加した。</p>	A	<p>○小学生対象の各種講座も地域の人にも定着してきているので今後も継続したい。</p> <p>○説明会に参加する受験生・保護者の増加が入学希望者の増加につながっているとされるので、参加者のニーズに合わせた満足度の高い企画を考える必要である。</p> <p>○英語入試・適性検査型入試での受験者・入学者を増やしていくことで、入学生の多様性を確保したい。</p>

学校関係者評価
実施日2019年6月15日
意見・要望・評価など
<p>◎英語入試導入によって英語力の高い生徒が入学する反面、学力差も生じる。その点で習熟度別授業は効果があると思う。</p> <p>◎バドミントン部が初めて県大会に出場できたことは大変喜ばしい。部活動は社会の縮図。勉強はもちろん大事だが、部活動も生徒の人間性を育てるうえで貴重な経験である。是非今後も頑張ってもらいたい。</p> <p>◎ハワイ短期留学は自主自立の側面から素晴らしい行事である。一貫部の生徒は高等部よりも1週間長いプログラムだが、英語イマージョン教育を受けてきているので、更に1週間長くていいと思う。</p> <p>◎職業体験としてスーパーマーケットでの実習や「あんといれすくーる(さいたま市との連携プログラム)」を長らく実施しているが、職業観の育成という観点からも中学2年次に実施するのは適切であると思う。</p> <p>◎「あんといれすくーる」の場に偶然居合わせたか、よく声も出ていて販売態度などもすばらしく感心した。</p> <p>◎スポーツフェスティバルを昨年度は学校で開催し、今年度は再び「彩湖グラウンド」に戻っての実施となった。ロケーションとして彩湖も悪くはないが、天然芝グラウンドの凹凸が所々にあったり、徒競走のレーンがわかりにくい、トイレがやや遠いなど改善の余地がある。</p> <p>◎さいたま市立大宮国際中等教育学校が新たに開校した。グローバル人材の育成に力を入れている点で本校と競合するが、英語教育への関心が高まっていることも事実である。</p>